



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二六一号

2024

3.22

責任者
市川 麻美

「令和五年度、 あと一日…」

令和六年三月十二日、雨降る中ではありましたが、令和五年度卒業式、地域関係者の皆様にもご参列いただき、晴れやかに執り行うことができました。とても感動的な式となりました。本当に皆様のおかげです、ありがとうございます。

校長の言葉(抜粋)：…今年は元日から災害が相次いでいました、戦争も残念ながら続いている国があります。が、私たちはここで今を生きています。自分



できることは何かをしつかり考え、できることを行い続けてほしいです。中学生こそが地域の力になるのです…

人の一生は年齢を三で割

ると一日の時間に換算できるそうです。卒業生は一五歳、三で割ると五。朝の五時ということですね。まさに夜が明けるところ。温かく守られたこの学校町から、広いところへ飛び立つ、これからがスタート。

目標を達成すること自体より、プロセス重視!! それを迎えるまでの課程が大事。ゴールはその大会の結果ではなくもつとその先にある、という意識を持つことが大事だということです。そして何より、物事を行うときに、enjoy!! 楽しむことが大事。これは皆さんともこれまで共有してきました。

いつも「笑顔」を。笑顔でいること、笑顔を作ること…最後に笑えれば、とにかく笑えれば、いいんです。

皆さんは、真鶴の希望・真鶴の誇りです。

それぞれの次の扉を開けて、出発です。小さな真鶴中から大きな広い世界へと羽ばたくのです。Walt Disneyは言いました。If you can dream it, you can do it. 夢見ることができれば、それは実現できる…夢なんて大



きなことでもなくともいい、どんな自分になりたいか、どんな自分でいたいか思い描いて、それに向かったとえどんな困難があっても、諦めずに進んでください。立ち止まって休憩しながらでもいいのです。Everyday is a new day. 日々、やり直せる、そして、「さあ、力を抜いて、また行こう」

保護者ならびに地域の皆さま、今年度も本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

「卒業式を振り返って」

とても感動的で、あたたかい卒業式でしたね。この卒業生は、私(教頭)が一年生の時に授業を受け持った生徒でした。なので特別な思いを持った卒業生でした。あの頃、楽しそうに動き回っていた生徒が、立派に羽ばたいていく姿を見ることができて嬉しく思いました。

在校生にとっても、卒業生や卒業式に思う気持ちは様々だと思います。各学年で翌日に書いた感想からいくつか紹介します。

中学校で一年間しか一緒に生活をしていなかった三年生。委員会など色々なことを教わり、すぐくお世話になっていた三年生の卒業式はすごくよかったです。三年生の言葉や歌の時は、すごく思いが伝わりました。

自分たちは練習の時よりも合唱の声が出ていて良かったです。この卒業式をみて、自分もあと二年後には卒業で、長いようで短いのもっと気を引き締めていきたいと改めて思いました。

一年一組 萩山 翔介

三年生が良かったと思える卒業式にしようと思いい、真面目に練習に取り組みました。合唱もいつもより声を出したり、全体練習の時も座礼が綺麗にできるように意識しました。でも、礼をするときの「一・二・三」の感覚がまだ微妙なので、来年の卒業式では気をつけたいです。

来年は二年生だから、三年生を送り出せるように一年生と協力して式を成功させたいです。

一年一組 石塚 真理



今回、特に頑張ったことは、準備と歌です。準備は班の人と協力して体育館の端から端までまっすぐにレッドカーペットを敷きました。カーペットに付いていたゴミも、ガムテープでしっかり取り除きました。

歌は、音程を間違えないようにしっかりと練習して、当日もハキハキ声を出せました。周りの人の声があまり聞こえてこなかったりしたけど、自分は練習したとおりに歌えて良かったです。

二年一組 山本 星明

今年の卒業式で僕は校歌を弾きました。三年と歌う最後の校歌ために日々練習を重ねて指揮者の藤田さんと石田さんと頑張ってきました。指揮者と合わせて弾くのが少し難しかったです。でも予行練習の時や本番の時は指揮者とうまく合わせて弾くことができました。来年度の卒業式は今年度のように自分で弾くことはできないけど、今の一年生に歌を任せたいと思いました。今年の卒業式で三年生の多くの人が泣いていました。去年の卒業式でもそうだけど、

僕ももらい泣きをしそうでした。生徒会長の宮川さんも泣いていました。卒業式で泣くのは当たり前ですね！それだけ充実した毎日を過ごしてきたということですね。仲が良かった三年生や優しいかった三年生が卒業するのはとても辛いです。

僕はもう三年生になります。受験やテストで大変になるうかと思いますが三年生になっても頑張りたいと思います。

二年一組 二藤 暁

「スポーツ大会を終えて」

三月十九日(火)の午後から、スポーツ大会を行いました。一・二年生の運動会実行委員会が主体となり種目からルールまでを決め、運営をするこ

とで次年度の運動会がスムーズに進むことも期待しています。

頑張っていた実行委員会の言葉を紹介します。



スポーツ大会を終えて、反省点と良かった点の二つの点で書きます。

まずは、反省点について。自分の反省点は役割をしっかりと果たせなかったこと

です。スポーツ大会が始まる時、並ばせるときもその役割を忘れてしまったし、障害物競走の障害物を置いたり戻したりするのを忘れてしまったたりしたのが反省点です。



次に良かった点です。自分が良かったなと思った点は、二年生との交流ができたことです。借り人競争で二年生を連れていったり、障害物競走では、各色のチームみんなが「頑張れ！」などの言葉をかけたりしていて、二年生との距離が近くなったかなと思いました。

一年一組 常盤 虎太郎

スポーツ大会を終え、自分の中で一番大きく残ったのは「準備不足だったな」という気持ちでした。生徒主体での開催を目指していましたが、当日は多くの先生の助けを得てやっと形になった、そんな風に感じました。

しかし、反省点が多く見つかる中でも、運動会ぶりに見たバトンがつながっていく姿は、やはりワクワクするものだなと思いました。



三月一日(金)六校時に一・二生合同でクリーン作戦が行われました。多くの保護者の方にも参加していただきました。グラウンド脇の側溝に溜まっていた大量の砂を掻き出すことができました。ご協力ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。

「ご協力ありがとうございました」

障害物リレーでは一人ひとりが障害を乗り越え、借り物競走では、普段関わりの無い人同士が関わる事ができていました。私はこの二つの競技を通して、仲間と協力すること、たくさんの人と関わることの楽しさを改めて確認することができたと思います。

私自身、後悔している部分や反省点は多くありますが、ここで得たことは運動会ではもちろん、新三年生になったときにも役立てていきたいです。

二年一組 但野 海宇